

(5) 第5学年の実践

①単元名

What do you have? 自分の夢に向けて時間割を作ろう。


②単元の目標

- ・時間割を作り紹介するために、会話したり交流したりする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・"What do you have?", "I have ~."を使って、教科名や教科を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・外国の教科の言い方の違いや共通点に気付き、関心を持とうとする。
(言語や文化への気付き)

③仮説検証についての具体的取組

<p>仮説1-①「興味・関心を高める場面設定」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「将来の夢に向けた時間割を作り、紹介する。」という単元のゴールを設定することで、教科を尋ね合う活動に必然性を持たせた。
<p>仮説1-②「英語に慣れ親しませるための工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会話で使う表現や歌をゲーム、チャンツで繰り返して英語に慣れ親しませた。 ○ペア、全体で発話練習を行うが、各自が話す場を作って自分も話せるという自信をもたせてどの児童も活動に参加できるようにした。
<p>仮説1-③「コミュニケーション活動の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目を見て」「はっきりと」等のコミュニケーションのポイントは、活動後の児童の反省をもとに決め、次の活動で児童が意識して取り組めるようにした。 ○苦手意識をもつ児童には、まわりが教え合い励まし合ったりしつつも、なんとか自分で言おうとしている場面をとらえて評価した。 ○いろいろな対処表現を使っている姿や、相手に伝わるように工夫して会話する姿を全体で紹介して全員でできるようにした。
<p>仮説1-④「評価の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動後に気付きや考えを紹介し合い、次の活動へ意識して取り組めるようにした。 ○ふり返りカードには感想欄を設けることで、友達のいいところや自分がまだできていないことを掴み、次時へ意識付けができるようにした。
<p>仮説2-②「他教科他活動との関連」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英語学習の中で積極的に発表したり楽しむ態度やなんとか表現して相手に伝えようとする態度、相手に伝わるように考えて会話しようとする態度を評価し、他教科やその他の学級や学校のくらしに繋がるようにした。

④本時の学習 (7/7)

過程	学習活動	教師の支援・児童の様子
<p>たしかに出会う</p>	<p>1 Greeting 体調を尋ね合い、気持ちを高めた。</p> <p>2 Warm up ・「I have song」を歌う。</p>  <p>I have Math. Do you have Math too? I do. 又は I don't.</p> <p>3 Today's goal 本時のめあてを確認する。</p> <p>自分の夢に向けて時間割を作ろう。</p>	<p>○体を動かしながら歌を歌い、楽しい雰囲気をつくった。</p> <p>【仮説1-②】 本時で使う単語や表現を使っ歌で、口慣らしをした。</p> <p>【仮説1-①】 「自分の時間割を作り紹介しよう。」というゴールに向けて教科カードを尋ね合った。</p>

かんがえてやってみる

- 4 **Activity1** 会話練習をする。
- ・チャンツ、ラインゲームをする。
 - ・ペアの会話を紹介し、発音やリズム・コミュニケーションのポイントを掴む。

右記の会話を使つてのデモ



A/B: Hello!

A: What do you have?
B: I have Math.



A: Math?

B: Yes please
A: Heave you are.
B: Thank you.
A: My pleasure.!

2please と教科カードの枚数を言葉とジェスチャーで伝えていた。

A/B: Bye!

- 5 **Activity2** 時間割を作ってクイズをする。
- ・誰の時間割かヒントを出しながら当てる。

英語でヒントを言いながらクイズを出した。



Emi; I have Math. What is mine?

Emi の班; What is hers?

All;C
Emi の班; Yes.
All;Why?

- ・自分の夢と必要な教科の理由を日本語で説明する。



日本語で理由を説明した。

「わたしは獣医になりたいです。そのために理科と国語を2時間入れました。そのわけは～」

きつき親しみ伝え合う

- 6 **Look back** 会話のポイントと友達の夢について感想を述べる。



「自分だけでなく○○のためにという目的意識があると本当に実現する気がしました。」

- 7 **Ending** あいさつをする。

これまでをふり返る

【仮説1-②】

挨拶をしたり明るく大きく言う
と会話が楽しくなること。また、
&を使って2つ以上の教科を伝
える方法を見つけたり、数字を
付け加えたりした。毎回新しい
方法を見出すことが活動への意
欲付けとなった。

【仮説1-④】

1 回目の活動後の反省会で「声
を大きく。」とコミュニケーション
ポイントを絞って2 回目の
活動に入ることで、はっきりし
た声で話すことができ、伝わり
やすくなったり楽しく向上でき
たことを実感していた。

【仮説1-③】

「言い方が分からない時は、自
分で尋ねた。」「相手に尋ねるこ
とは難しかったけど、自分が欲
しい教科は伝えることができ
た。」と感想に記していた。

【仮説2-②】

「理科で動物のことを勉強する
ことと、国語で飼育主とのコミ
ュニケーションが必要になるか
ら」と理由をはっきり伝えた。

【仮説1-③】

「2 回目の活動では、1 回目よ
りはきはき言うことができ楽し
くなって会話が続いた。」と感
想に記していた。

【仮説1-④】

夢とそれに必要な時間割を聞いて友達の願いを知り、「現実味
が出てきた。」「夢が叶うとい
い。」と感想を述べた。

